

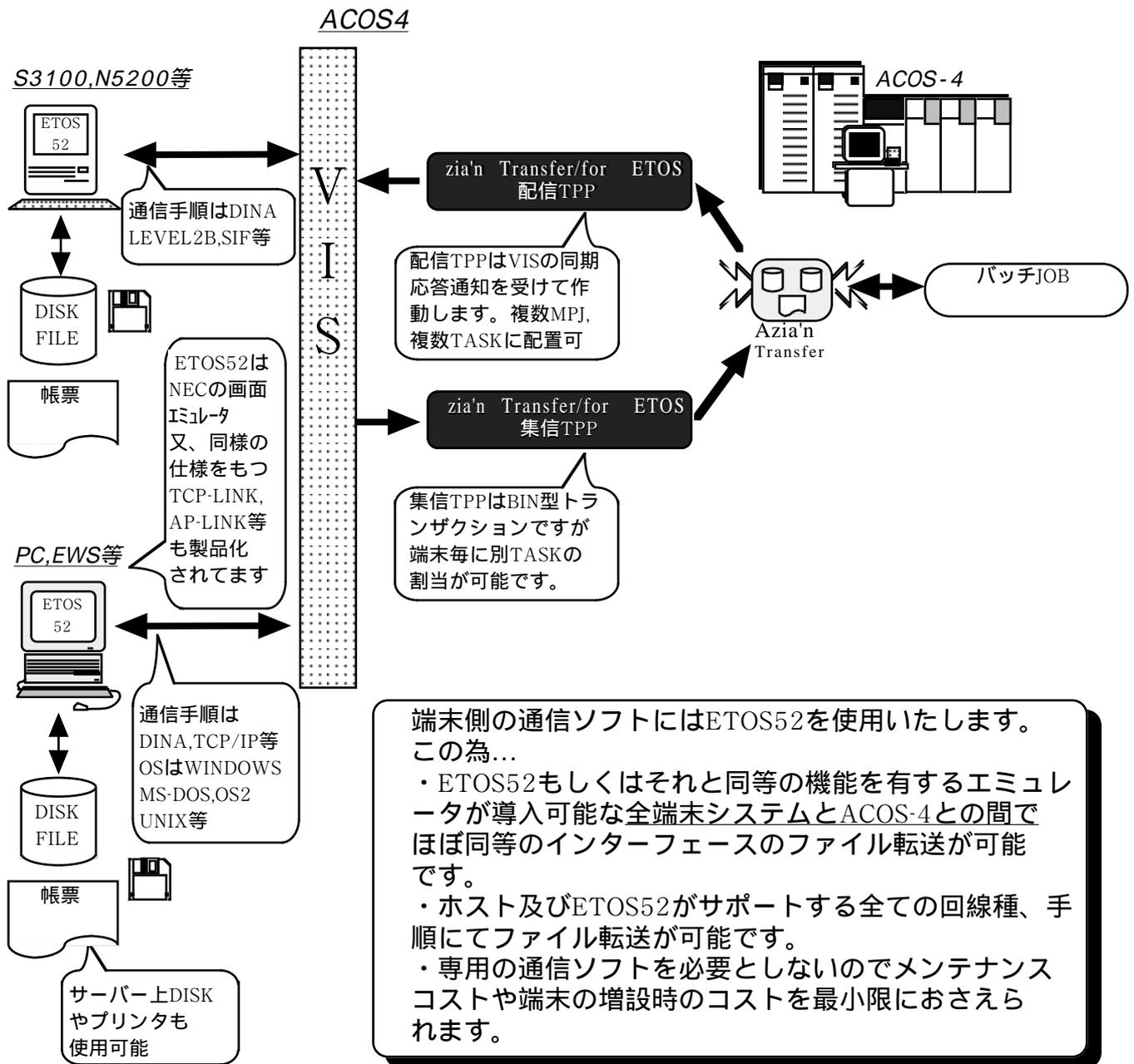
Azia'n Transfer/for ETOSのご紹介

「Azia'n Transfer/for ETOS」は、ACOS-4対応統合ファイル転送ソフト

「Azia'n Transfer」の中の1コンポーネントであり、ACOS-4ホストとETOS52エミュレータを実装した各種端末システムとの間で、データファイルの送受信をしたりACOS側で作成された帳票を端末プリンタに印刷したりする事を目的としています。

それでは以下に本コンポーネントの主な機能と特徴をご紹介します。

1. システム構成図



2. 各種機能のご紹介

A. 基本的な送受信機能

- a. PC系の端末の場合最大レコード長4096バイトの可変長転送が、N5200,S3100系の端末の場合最大レコード長999バイトの固定長転送が可能です。
- b. 基本的にはテキストタイプのデータを扱いますが、ハイレベル系の通信手順(DINA,TCP/IP等)のもとでバイナリ転送をサポートしているETOS52を使用すれば、バイナリデータの転送も可能です。
- c. 端末種に応じた漢字変換(JIS シフトJIS,NEC内部コード)が可能です。
- d. 複数の媒体にまたがるデータを連続して送信したり、大量のデータを複数の媒体に分けて受信することが可能です。
- e. ホスト側におけるファイル毎の未転送,転送済といった状態管理機能と、端末側における送信後のファイルクリア機能や受信対象ファイルの存在チェック機能等を組み合わせることにより、ホスト業務と端末側業務間のインターフェースにおけるデータの紛失や2重転送といった事故を未然に防ぐことが可能です。
- f. 帳票に関してはN5200,S3100系及びPC-PR系,ESC-P系プリンタに対する印刷に対応していますが、今後LIPS系プリンタへの印刷もサポートする予定です。又、PC側でプリントマネージャを使用した場合も考慮した設計となっています。

B. 送受信カタログ機能

... 定型業務としての送受信を簡単に追加

- a. 送受信実行時に画面に入力するパラメータを予めファイルID毎に登録しておけますのでメニュー等から選択するといきなりそのファイルの転送用パラメータが設定済みの画面が表示され、1アクションで転送を開始することができます。

C. 選択受信機能

... 帳票と同じ感覚で非定型な受信ができます

- a. 受信/印刷対象ファイル一覧画面より受信したいデータを選択し受信することが可能です。
- b. 帳票データは通常プリンタに印刷しますが、上記のようにしてDISKに受信することも可能です。DISKに受信した帳票データは通常のワープロソフトで表示できますし、HTML形式への変換も可能ですのでイントラネットと組み合わせることにより社内外を問わずネットスケープ等のWWWブラウザによる帳票検索が可能になります。

D. 受動送受信機能

... ホスト起動による送受信や自端末を占有しないですむ送受信

- a. 端末側にて受動送受信モードを選択しておくことにより、バッチJOBや他端末からその端末に対して送受信を実行させることが可能です。
この時転送要求はキューイング管理されます。又、転送障害時に自動リトライすることも可能です。
- b. このことにより夜間の自動集配信やユーザーが自端末を占有しないでサーバーからの送受信を実行させるといったことが可能になります。

E. ETOS52簡易操作による送受信機能

... PC側業務からボタン1つで送受信ができます

- a. ETOS52の簡易操作に本ソフトによる送受信手順を予め登録しておけば、端末側のメニューやアプリケーションから1アクションでファイルの送受信指示を行うことが可能です。

F. ホスト側業務とのインターフェース

... 既存システムにすぐ組み込めます

- a. 端末に配信するデータや他の業務に引き継ぐデータは専用のJCLマクロにて登録します。
入力するファイルは順編成及び私有シスアウトのサブファイル形式なら何でも可能です。
又、登録と同時に印刷要求や受信要求JOB起動要求を発行することも出来ます。
- b. もちろん端末から受信したデータや他の業務から引き継がれたデータを順編成ファイルに抽出する専用のJCLマクロも用意されています。
- c. 端末からのデータ到着時、予め登録してあるJOBを起動出来ます。このJOBに対しては到着したファイルの情報をJOB仮パラメータ等の形で引き継ぎますので、前述のJCLマクロにて到着したデータのみを抽出することが可能です。
- d. ホストと端末との間のファイル転送の状況を加入者毎もしくはファイルID毎にVIS画面にて検索出来ます。
- e. オプション機能を使用することによりACOS側固定長形式のデータをCSV形式等の区切り文字付きテキストデータに変換して端末側に配信したり、逆に端末側から集信した区切り文字付きテキストデータをACOS側の固定長形式に変換することが可能です。

3. 運用イメージ

A. メニュー画面

VMR050 Azia'n Transfer Menu		95-11-06 12:52:38	
番号=> 30			
		**	各種管理情報 メンテ **
01	受信/印刷対象ファイル検索&操作	70	加入者情報 メンテ
		71	端末情報 メンテ
03	端末状態&送受信待ちファイル操作	72	プリンタ情報 メンテ
		73	操作説明情報 メンテ
05	プリンタ状態&印刷待ち帳票 操作		
		80	ファイル情報 メンテ
		81	ファイル集信時起動情報 メンテ
		82	ファイル送信時画面情報 メンテ
		83	ファイル受信時画面情報 メンテ
		85	帳表情報 メンテ
30	テストファイル1の送信		
31	テストファイル3の送信		
		**	最近利用された処理 **
32	テストファイル2の受信	91	受信/印刷対象ファイル検索&操作
		92	帳表情報 メンテ
		93	ファイル集信時起動情報 メンテ
		94	ファイル情報 メンテ
		95	プリンタ情報 メンテ
		96	加入者情報 メンテ
40	受動送受信		
パスワード		オプション	
R	入力可	TCP/IP	

これは本システムに標準で添付されるメニューシステムによるVISメニュー画面の例です。(メニュー表示項目は自由に変更可能です)

このメニューを一般の業務用メニューとして使用することも可能ですし、逆に本システムの提供するサブルーチン等を用いて「Azia'n Transfer」の各画面をお客様にて現在御使用中のVISメニューから呼び出すようにすることも可能です。

さて、ここでは30,31,32番に予め送受信パラメータが設定された画面(前述のカタログ機能にて)が登録されています。そこで30番を選択すると.....(次頁へ)

B. ファイル送信指示画面

```

AX3SA0R   ファイルの送信をしますか?                               95-11-06  12:52:38
=> Y
0:表示      S:送信開始指示      7:操作説明      8:前画面      9:終了
●ホスト側ファイル情報
宛先加入者  AZSYSTEM          A Z I Aホスト側業務一般
ファイルID  TESTF1                    テストファイル1
↑↑↑
加入者コード KAIHATSU2        開発II
コメント
●端末側ファイル情報
データセット名 TESTF1.TXT
デバイス        A|(0~3:D0~D3 4~5:F0~F2 A~Z:DRIVEA~Z)
媒体交換       N|(Y:有り N:無し FDDからの送信時のみ意味を持ちます)
●送信時属性情報
オプション

```

処理実行端末 (省略すると当端末より送信します)

アクセスID

上記ファイル送信を開始しますか? Y/N

R 入力可 **TCP/IF**

上のように既にパラメータが設定済のファイル送信指示画面が表示されます。ここで「Y」+実行にて送信が開始されます。ここでデータセット名やデバイスのみ変更可能なように設定しておくことも出来ます。

C. ファイル送信中画面とファイル送信終了確認画面

```

95-10-27  22:22:49
●ホスト側ファイル情報
宛先加入者  AZSYSTEM          A Z I Aホスト側業務一般
ファイルID  TESTF1                    テストファイル1
↑↑↑
加入者コード KAIHATSU2        開発II
●端末側ファイル情報
データセット名 #DS#TESTF1.TXT
デバイス        A
●属性情報
オプション

```

R 入力不可 **TCP/IF** 000495

```

AX30A0C   ファイルの送信が正常終了しました                       95-10-27  22:25:57
=>
7:操作説明  8:前画面  9:終了
●ホスト側ファイル情報
宛先加入者  AZSYSTEM          A Z I Aホスト側業務一般
ファイルID  TESTF1                    テストファイル1
↑↑↑
加入者コード KAIHATSU2        開発II
●端末側ファイル情報
データセット名 #DS#TESTF1.TXT
デバイス        A|(0~3:D0~D3 4~5:F0~F2 A~Z:DRIVEA~Z)
出力モード   A|(0:置換 A:追加 C:作成)
媒体容量(KB) (FDDへの受信時にこの値分受信すると媒体交換待ちになります)
●属性情報
オプション
送信データ件数  495 件          送信バイト数  19285  BYTE

```

御確認の上実行キーを押して下さい。

R 入力可 **TCP/IF**

尚、ファイルの送信中や送信終了時には上のような画面が表示されます。

D. 端末から送信されたデータを抽出するJCL例

```

#AZFGET
OUTFILE=(TESTF1.W01 PUBLIC SIZE=5 INCRSZ=1 RECSIZE=256 BLOCKSZ=8192 RECFORM=FB)
FLID=TESTF1 AKSCD=AZSYSTEM;

```

ここでプラグインモジュールに関する記述を行えば、区切り文字付きテキスト形式を固定形式データに変換して抽出することも可能です。

G. ファイル受信指示画面

```

AX3SA0S   ファイルの受信をしますか?                               95-10-27  22:05:24
=> Y
┌──────────┬──────────┬──────────┬──────────┬──────────┐
│0:表示    │G:受信開始指示│7:操作説明 │8:前画面  │9:終了    │
└──────────┴──────────┴──────────┴──────────┴──────────┘
●ホスト側ファイル情報
発生源加入者  AZSYSTEM      AZ I Aホスト側業務一般
ファイルID    TESTF1      テストファイル1
コメント      XXXX
              ↓↓↓
加入者コード  KAIHATSU2   開発II
受信条件      P      (P:未受信のデータのみ受信する A:受信済データも受信する)
受信後処置    Y      (Y:受信済にする          N:受信済にはしない)
●端末側ファイル情報
データセット名  %C6%TESTF1.TXT
デバイス        A      (0~3:D0~D3 4~7:F0~F2 A~Z:DRIVEA~Z)
出力モード      0      (0:置換 A:追加 N:新規作成 C:作成OR置換 E:作成OR追加)
データ長        (出力モード=N,C,E時に作成ファイルのデータ長を特定したい時指定)
媒体容量(KB)    (FDDへの受信時にこの値分受信すると媒体交換待ちになります)
●受信時属性情報
オプション      _____
処理実行端末  _____ (省略すると当端末にて受信します)
アクセス権ID  _____
上記ファイル受信を開始しますか?   Y/N
R 入力可  TCP/IE
  
```

上のようなファイル受信指示画面が表示されます。ここで「Y」+実行にて受信が開始されます。もし予めデータセット名やデバイス等の必須パラメータが設定されていなければ入力するようメッセージが表示されます。

H. ファイル受信中画面とファイル受信終了確認画面

```

┌──────────┬──────────┬──────────┬──────────┬──────────┐
│          │          │          │          │          │
└──────────┴──────────┴──────────┴──────────┴──────────┘
95-10-27  22:08:31
●ホスト側ファイル情報
発生源加入者  AZSYSTEM      AZ I Aホスト側業務一般
ファイルID    TESTF1      テストファイル1
              ↓↓↓  只今、ファイル受信中です。しばらくお待ち下さい…。↓↓↓
加入者コード  KAIHATSU2   開発II
●端末側ファイル情報
データセット名  %C6%TESTF1.TXT
デバイス        A
●属性情報
オプション      _____
R 入力不可  TCP/IE  000157
  
```

```

AX3A0C   ファイルの受信が正常終了しました                               95-10-27  22:08:55
=>
┌──────────┬──────────┬──────────┬──────────┬──────────┐
│          │          │          │          │          │
└──────────┴──────────┴──────────┴──────────┴──────────┘
7:操作説明 8:前画面 9:終了
●ホスト側ファイル情報
発生源加入者  AZSYSTEM      AZ I Aホスト側業務一般
ファイルID    TESTF1      テストファイル1
              ↓↓↓
加入者コード  KAIHATSU2   開発II
●端末側ファイル情報
データセット名  %C6%TESTF1.TXT
デバイス        A      (0~3:D0~D3 4~7:F0~F2 A~Z:DRIVEA~Z)
出力モード      0      (0:置換 A:追加 C:作成)
媒体容量(KB)    (FDDへの受信時にこの値分受信すると媒体交換待ちになります)
●属性情報
オプション      _____
受信データ件数  495 件      受信データ量  40590  BYTE
御確認の上実行キーを押して下さい。
R 入力可  TCP/IE
  
```

尚、ファイルの受信中や受信終了時には上のような画面が表示されます。

I. 受動転送を実行させるJCL例

```
¥AZFSET INFILE=(AZB_FDEL.W01 PUBLIC NORMAL=DELETE) FLID=SLFILE AKSCD=KAIHATSU2
OUTREQ=Y ATRMID=ANY
DSNM=AZB_FDEL.TXT DV=A OPMD=C;

¥AZRECV HKSCD=KAIHATSU2 FLID=TESTF1 AKSCD=KAIHSTU1
DSNM=/C6/TESTF1.TXT DV=A RTRMID=ANY ;
```

このようなJCLを実行することにより、下記の受動転送を実行させることが可能です。

J. 受動転送モード画面

```
22:28:24 SEND/RECEIVE ACCEPTER IS STARTED
22:30:34 DATA FILE RECEIIVE IS STARTED
22:30:34 FROM=(FLID=SLFILE,AKSCD=KAIHATSU2,HKSCD=AZSYSTEM) TO=(A:AZB_FDEL.TXT)
22:30:53 DATA FILE RECEIIVE IS TERMINATED
22:30:53 COUNT=1293 BYTE=106026 STATUS=DONE
22:32:15 DATA FILE SEND IS STARTED
22:32:15 FROM=(A:¥C6¥TESTF1.TXT) TO=(FLID=TESTF1,AKSCD=KAIHATSU1,HKSCD=KAIHATSU2)
22:32:25 DATA FILE SEND IS TERMINATED
22:32:25 COUNT=495 BYTE=19285 STATUS=DONE
```

Ⓒ 入力不可 **TCR/IF**

これは受動転送モードの端末の画面です。(メニューからの選択もしくは簡易操作等により端末をこのモードにしておくことができます)

ご覧のようにホスト側や他端末からの要求による送受信実行の様子がコンソールのようにスクロールアップしつつ表示されていきます。(もちろんWindows等でETOSを使用している場合はアイコン化して本画面を隠しておくこともできます)

尚、PCサーバ側に「Aziun Acceptor」を用意すれば、転送終了後にPC側の処理を起動することが可能です。又、ファイル転送後に結果を通知する為のレコードを別ファイルに出力する機能があるので、それを利用してNTやUNIX上で動作する他社製の運用管理ツール(TremonyやJP1等)との連携も可能です。

4. 使用条件等

- a. OS : ACOS-4 「XVP」又は「XVP/PX」
、さもなくばAVP/XR R3.1以降又は、MVP/XE R5.1以降
これら以前のOSをお使いの場合は別途ご相談下さい。
- b. PP等 : VIS及びRIQS (V1又はV2)がインストールされている事。

Azia'n Transfer R2.0

製造元 (有)Soft And Soul
tel: (03)3370-7051
fax: (03)3320-0950
e-mail: azian@softandsoul.co.jp

Azia'n Transferは、株式会社Imagicaシステムズ[®]及び
有限会社ソフト・アンド・ソウル[®]の登録商標(申請中)です。
本書に記載された社名・商品名は各社の登録商標・商標です。